

地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立安佐市民病院

## 泌尿器科

### 医学生臨床実習Ⅱ（2週間型）

#### 研修プログラム

#### 基本方針

泌尿器科では、腎尿管膀胱を中心とした尿路系と男性生殖器に関わる領域を主として扱う。疾患は悪性腫瘍をはじめ、尿路感染症、下部尿路機能障害、内分泌疾患と多岐にわたる。また、これからの高齢化社会においては、前立腺癌をはじめ尿路・性器疾患は年々増加しており、外来診療・病棟診療・手術を見学することによって、臨床医に不可欠な泌尿器疾患のプライマリケアや全身管理のための基礎的知識と技術を理解することを目的とする。

また当科は周辺地域医療の中核拠点として手術・化学療法を中心とした急性期医療が主な業務であり、今後の高齢化社会において病診連携の役割分担を進めていく上で必要な技能を身に着つける研修を行う。

#### I. 実習到達目標

##### 【一般目標 GIO】

- (1) 広島市北部の地域医療の中心にある医療拠点病院の役割を理解する。
- (2) 一般的な泌尿器科疾患の診療を理解する。
- (3) 泌尿器急性期医療（手術・化学療法）の診療に参加し理解を深める。
- (4) 泌尿器救急疾患の基本的な診療を理解する。
- (5) 院内外他職種との連携の理解を深める。
- (6) 患者さんの社会的背景を理解する。
- (7) 緩和ケアを理解する。

##### 【到達目標（行動目標） SBO】

- (1) 安佐北区、安佐南区、安芸太田、北広島、安芸高田、島根県邑智郡、三次市、庄原市の病院および診療所との病々連携、病診連携を理解する。
- (2) 問診、身体診察、一般的な泌尿器検査手技、処置を理解する。
- (3) 以下に示す「習得すべき基本的手技」を習得するよう努力する。
- (4) 以下に示す「習得すべき病態・疾患」を経験するよう努力する。

- (5) コメディカルとの積極的なコミュニケーションを行う。
- (6) 患者さんご家族との積極的なコミュニケーションを行う。

<理解すべき基本手技>

- \* 問診と身体診察
- \* 直腸診
- \* 腹部超音波
- \* 画像診断 (CT・MRI など)
- \* 膀胱尿道ファイバースコープ
- \* 尿道カテーテル操作
- \* 手術手技 (経尿道的手術・開腹手術・腹腔鏡下手術・ロボット支援手術)

<習得すべき病態・疾患>

- \* 泌尿器腫瘍 (前立腺がん・膀胱腫瘍・腎盂尿管腫瘍・腎細胞がん・精巣腫瘍・陰茎腫瘍・副腎腫瘍・後腹膜腫瘍など)
- \* 前立腺肥大症
- \* 尿路感染症 (腎盂腎炎・膀胱炎・前立腺炎)
- \* 神経因性膀胱
- \* 尿路奇形
- \* 性感染症
- \* 性機能障害
- \* 男性不妊症
- \* 尿失禁
- \* 骨盤性器脱
- \* 間質性膀胱炎

## II. 研修方法

### 1. オリエンテーション

研修開始日に指導医が行う。研修プログラムの具体的内容を説明し、研修目標、行動目標について確認する。

### 2. 病棟研修

指導医と診療治療に関する研修・見学を行う。

泌尿器科の入院患者は、悪性疾患が中心であり、手術患者、化学療法中の患者、放射線治療中の患者、癌末期のケアを受けている者、さらに尿路感染患者など様々である。これらの症例を通じて、手術患者の周術期管理、進行癌患者の化学療法、癌末期患者のターミナルケアの実際を学習するとともに、記録法、保険診療、リスクマネージメント等についても研修・見学を行う。

### 3. 外来研修

指導医の指導の下に、尿路性器の診察・処置の見学を行う。問診と理学的所見などから必要な検査法や治療法を想定する。

### 4. 検査・手術

指導医とともに、原則としてすべての泌尿器科検査・手術に参加する。

### 5. カンファレンス

入院患者カンファレンスで、担当入院患者の要約と問題点を提示する。外来患者カンファレンスに出席し、画像診断の基本を習得する。

### 6. 週間スケジュール

	午前	午後
月	手術	手術
火	外来病棟研修・検査	外来病棟研修・検査・外来患者カンファレンス
水	手術	手術
木	外来病棟研修	外来病棟研修・検査・入院患者カンファレンス
金	手術	手術・外来病棟研修・検査

月～金は午前8時過ぎからモーニングカンファレンス・病棟回診を行います。

## III. 指導体制

指導医

望月 英樹（泌尿器科部長）：外来・入院・手術での指導

村田 大城（泌尿器科医師）：外来・入院・手術での指導

志熊 紘行（泌尿器科医師）：外来・入院・手術での指導

研修責任者（研修プログラム責任者）

三田 耕司（泌尿器科主任部長）：外来・入院・手術での指導総括

## III. 評価

学生の評価は以下のように行う。

評価項目

- （1）指導医による学生の行動内容の評価
- （2）カンファレンスでの理解度の評価